

【防災センター編】

このシートは、

2019

調査実施分

No.

142

2018

ファシリティコスト分

58,462 人

北広島市 公共施設カルテ

調査実施年度

平成31年度

施設名	防災センター				
-----	--------	--	--	--	--

大分類	行政系施設	中分類	その他行政系施設	施設番号	142
-----	-------	-----	----------	------	-----

所管部課	危機管理課
------	-------

1 土地データ

所在地 (地区)	共栄586番地 (東部)	敷地面積	24,568 m ²
		うち借地面積	- m ²

2 建物データ

複合・併設施設	-			建築年度	平成19年度
建物構造	RC	延床面積	1,256 m ²	経過年数	12年
階数(地上)	2階	階数(地下)	-階	避難所指定	指定緊急避難場所
概算更新コスト	502,400 千円	法定耐用年数	50年	市民1人当たり更新コスト	8,594 円/人

3 管理運営データ

利用状況	H28年度	H29年度	H30年度	平均利用者数	管理形態				
	5,505 人	4,622 人	4,786 人	4,971 人	指定管理者				
ファシリティコスト 平成30年度分 施設コスト ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②施設運営コスト 公共サービスを提供するために要する経費	内 訳		金額(千円)		内 訳		金額(千円)		
	収 入	利用料等	-	-	-	支 出	修繕料	-	
		国費	5,758	-	-		①施設維持コスト	火災保険料	3
		道費	-	-	-		維持管理委託料	8,562	
		その他	-	-	-		敷地借上料	-	
		市費(一般財源)	4,760	-	-		工事請負費	-	
	合 計		10,518		その他維持費	-	小 計	8,565	
					②施設運営コスト	人件費	-		
					光熱水費	1,654			
					運営委託料	-			
その他運営費					299				
小 計					1,953				
合 計(①+②)		10,518							
コスト計算	平均利用者数1人当たり		市民1人当たり		延床面積1m ² 当たり				
単位コスト	2,116 円/人		180 円/人		8,374 円/m ²				

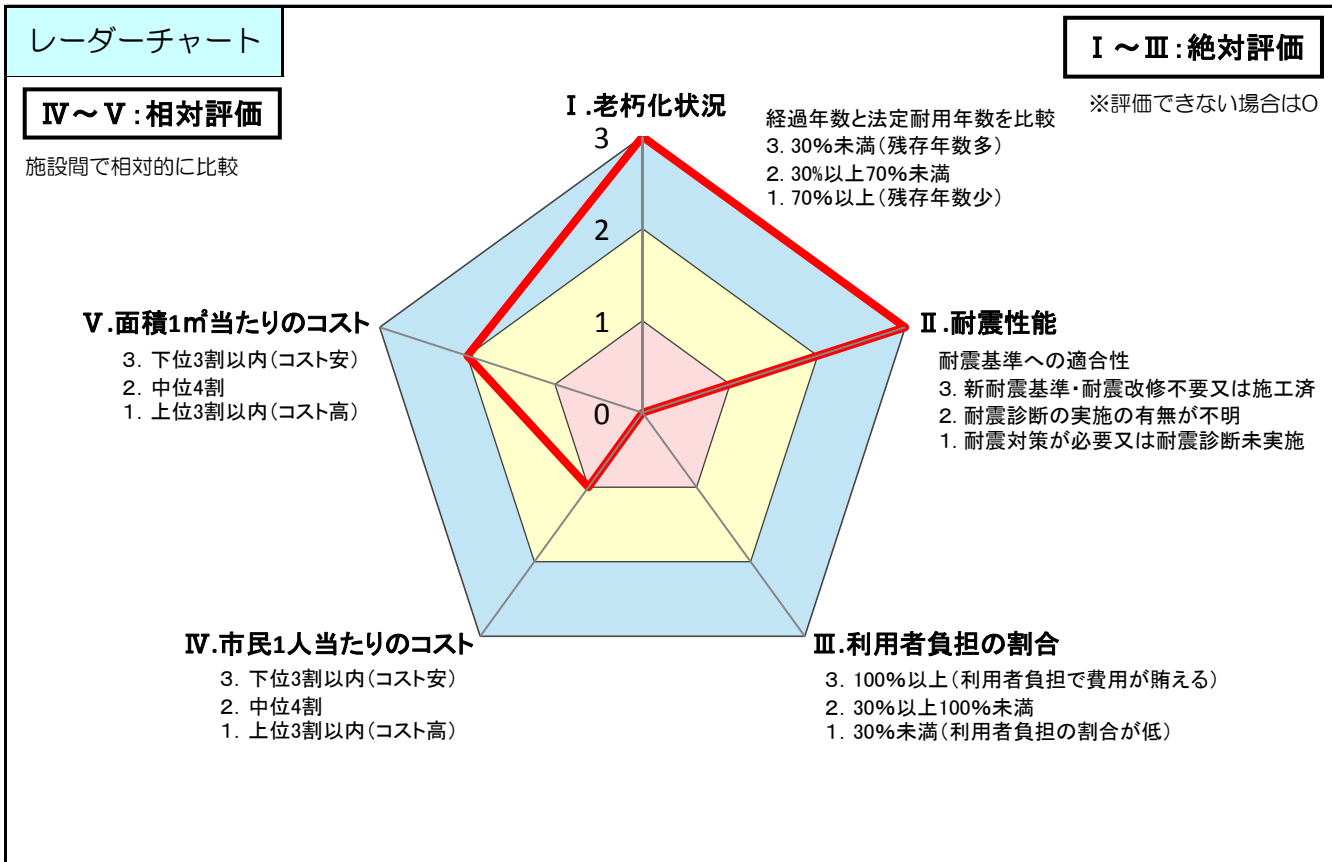
4 修繕履歴

実施年度	内容	工事費(千円)	実施年度	内容	工事費(千円)
H27	No.2ボイラー修繕	107			
H28	No.1ボイラー修繕	107			
H28	灯油ホームタンク配管修繕	5			
H28	No.1ボイラー修繕	49			
H29	非常用発電装置油漏えい調査等	31			
H29	湯沸器修繕	9			
H29	積算電力計取替修繕	497			
H29	地下タンクゴムパッキン修繕	50			
H29	非常用発電機用蓄電池交換	594			

5 特記事項

--

6 データ分析



レーダーチャートで示す5つの指標

I. 老朽化状況	<p>建物の老朽化を示す指標 (%) 建物の経過年数と法定耐用年数を比較して老朽化率を%表示 (経過年数÷法定耐用年数) 数値が高いほど老朽化が進んでいる。</p>	24 (%)
II. 耐震性能	<p>建物の耐震安全性を示す 耐震性能の有無と対策の必要性を表示 耐震性能あり：新耐震基準で建設されているか、診断結果で対策不要か 対策実施済。</p>	耐震性能あり
III. 利用者負担の割合	<p>ファシリティコストに対する利用料等(利用者負担の割合)を示す指標 利用料等÷ファシリティコスト(施設維持管理コスト) 数値が高いほど、利用者負担の割合が高く、収支のバランスが取れている。 利用料等が発生しない施設は1、ファシリティコストが発生しない施設は3。</p>	- (%)
IV. 市民1人当たりのコスト	<p>市民1人当たりの施設維持管理にかかるコストを示す指標 支出合計÷人口 数値が高いほど、市民一人あたりが負担する金額が大きくなっている。</p>	180 (円/㎡)
V. 面積1㎡当たりのコスト	<p>延床面積1㎡当たりの施設維持管理にかかるコストを示す指標 支出合計÷延床面積 数値が高いほど、施設規模に比べて施設維持・運営にコストがかかっている。</p>	8,374 (円/㎡)
総合評価	<p>経過年数から老朽化していないと判断(I)。耐震性能を有している(II)。 利用者負担は評価できない(III)。市民一人当たりのコストが大きい(IV)。 市内全施設の相対的な比較では、㎡あたりの施設維持コストは標準的(V)。</p>	